

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670500166
法人名	医療法人杏林会
事業所名	グループホームあんずの家
訪問調査日	平成21年1月30日
評価確定日	平成21年3月11日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 2009年2月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4670500166
法人名	医療法人杏林会
事業所名	グループホームあんずの家
所在地	いちき串木野市桜町39-1 (電話)0996-32-8111

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48-13		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年3月11日

【情報提供票より】(20年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 18 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17 人 常勤 17人, 非常勤 人, 常勤換算 17人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2階建ての 階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900	円

(4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	丸田病院、丸田歯科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いを少し入った閑静な住宅街に開設されているホームは周囲の住宅と違和感なく調和している。少し歩くと商店街もあり、利便性に恵まれた環境の中に立地している。運営者・管理者・職員は心をひとつにし、認知症のお年寄りの安心とその人がそれまで慣れ親しんだ暮らし方を継続することの大切さをホームの理念にも掲げ日々のケアに邁進している。また、法人の公開講座では認知症についての事例発表や、在宅で認知症患者を抱えている家族のために相談会を開くなどし、法人としての役割を積極的に地域に発信している。全職員が常勤勤務であり、やむをえない離職以外はほとんど異動がないため利用者及び家族となじみの関係がつけられている。開設6年目を迎え更に充実した地域密着型サービスのグループホーム運営が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域に開かれた施設を目指す理念を掲げ、自治会にも加入しており、地域行事、ホームでの催し物で交流ができています。評価の意義についても全職員で評価に仕組み意義のあるものとして捉えています。職員研修も法人内外の研修に交代で全職員が参加できるようにしています。管理者が地区の役員でもあるので情報交換、勉強会など交流ができています。栄養摂取、水分量は栄養士の指導をうけており、水分も個々の状態に応じて確保するように支援しています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、全職員で評価にとりくみ、ケアサービスの向上と振り返りの機会として捉えています。また、年2回チャレンジシートにて目標を立て、目標に対しての自己評価と運営者の評価も受けている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	公民館長、民生児童委員、公民館主事、地域包括支援センター職員、家族代表などの参加を得て定期的に開催されている。避難訓練後の運営推進会議では、地域住民の協力体制について意見が出、町内会長より、連絡網を作成してはとの意見がでるなど協力関係を話し合っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族などの意見などを取り入れる重要性を認識し、苦情相談窓口を明示し、入居時に家族に説明している。また、気軽に相談等もらえるような関係作りに日々努めている。家族から計算ドリルの活用等の希望があり、出された意見要望などは職員で話し合い、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会を通じ、地域の高齢者の状態を把握し、ホームの催し物に地域の方々を誘って訪問してもらうなど交流が行われている。小学生の学習見学や中学生の職場体験学習も受け入れている。また、資源ごみの回収にも参加している。法人の病院では、在宅で認知症の家族を抱えている人たちのための相談会も定期的に開催している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で作り上げており、ホームとしての理念と法人としての理念があり、法人全体としては地域住民に開かれた施設を作ると掲げ、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲げてある。朝の引継ぎ、毎月のスタッフ会議で確認し、日々、理念にそったケアに励んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会を通じ、地域の高齢者の状態を把握し、ホームの催し物に地域の方々を誘って訪問してもらうなど交流が行われている。小学生の学習見学や中学生の職場体験学習も受け入れている。また、資源ごみの回収にも参加している。法人の病院では、在宅で認知症の家族を抱えている人たちのための相談会も定期的開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全職員で評価にとり組み、ケアサービスの向上と振り返りの機会として捉えている。また、年2回チャレンジシートにて目標を立て、目標に対しての自己評価と運営者の評価も受けている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	公民館長、民生児童委員、公民館主事、地域包括支援センター職員、家族代表などの参加を得て定期的開催されている。避難訓練後に運営推進会議を開催したところ地域住民の協力体制について意見が出、町内会長より、連絡網を作成してはとの意見がでるなど協力関係を話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課の職員とは、常に相談や助言をもらうなど、連携を図っている。福祉課の職員が長寿のお祝いをもって来るなど行き来する機会がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に本人の状態を報告している。変化があったり、受診の際は都度報告している。面会の機会を増やすためにも入居費は持参払いを原則にしている。金銭管理は出納帳にて管理し、報告している。職員異動は便りで家族に紹介している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、気軽に相談などもらえるような関係作りに努めている。家族から計算ドリルの活用などの希望があり、出された意見要望などは職員で話し合い、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の行き来がしやすい造りなので職員は両ユニットの利用者となじみの関係ができるように日頃から交流をもっている。職員の離職はあまりないが、異動の場合でもダメージを受けないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修に全職員が交代で参加できるようにしている。研修後の報告により、職員は共有し、技術や知識の向上に努めている。また、資格取得にもホームとしては支援している。緊急時の対応等、法人の看護師の協力を得て実技研修も行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度からの希望であった地域のグループホームの協議会を発足し、情報交換や勉強会、食事会等交流が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に必ず自宅を訪問し、本人、家族の現状を把握するようにしている。職員、他の利用者少しでも慣れ親しんだ関係ができるように家族と共に見学してもらい、なじみながらの信頼関係作りに努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩として敬い、その人らしさを大切にしながら日々の暮らしの中で、励まされたり、利用者から教わったりするなど学び、支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で一人一人の表情や言動を把握して思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者も日々職員が常に声かけに努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の思いや要望、職員と必要であれば主治医の意見を取り入れ、集約し、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の様子を介護経過表に記録し、スタッフ会議で話し合い面会時に家族の意見をもらって定期的な見直しをしている。状態変化時や入退院後の見直しは都度行っている。月1回の定期受診の際に主治医の意見も計画に反映させている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族などの状況に応じて病院受診、リハビリ、他のグループホームに入居している友人の訪問など特別な外出支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等が希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	スタッフ会議などで方向性を確認しあっている。ホームができる最大の支援を主治医とともに、意思を確認しながら家族などに説明しているが指針は作成していない。		重度化や終末期に向けた取り組みは口頭のみで話し合っているが、指針と同意書の作成が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との日々の関わりの中で職員は傾聴に心がけ尊厳を大切に、ことばかけ、接し方、記録の取り扱いなど配慮している。職員採用時の誓約書も取っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、睡眠、食事、レクリエーションなど一人一人の体調や生活リズムに留意しながら、柔軟に支援している。昼夜逆転の利用者に対しても落ち着くまでその人のペースで過ごしてもらっている。また、自己決定できるような声かけ、場面作りに配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、配膳、下膳、下ごしらえなどできる利用者と一緒にいき、楽しく食事をしている。利用者の希望をきいて献立を決めることもあり、ユニットで食事内容が違う。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決めていない。入浴を希望しない利用者には清拭をしている。一人で入浴可能な利用者にも安全のため職員の見守りで支援している。同性介助を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字、洗濯物干し、たたみ、花壇作り、家庭菜園の栽培収穫、携帯電話で家族と話しをするなど利用者の趣味や特技を發揮できるように支援している。行きつけの理美容院への外出支援や誕生日の夕食、知人宅訪問など気晴らしの支援もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材料の買い物や日常的な散歩など身体状況を考慮しながら外出の支援をしている。ドライブやお祭り見物などにも出かけ、ホームに閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員はカギをかけることの弊害を理解している。台所が両ユニット共玄関、道路に向っているので、常に目配りができ、外出傾向の利用者にも見守りで自由な暮らしができるように努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回夜間想定で消防署、職員、利用者、運営推進会議のメンバーなどの協力で避難訓練、防災訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養摂取は記録により一人ひとりの状態の把握に努め、身体状況に応じて食事形態を考慮している。栄養士より栄養指導も受けている。水分量は個々の状態に合わせて確保するように支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分のリビングは天井が高く開放的である。台所もリビングからオープンなので出入りしやすい。玄関は段差がなく腰掛けて靴が履けるように靴箱を工夫している。浴室、トイレ、洗面など身体機能を活かし、自立した生活が送れるよう配慮が行き届いている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はたたみ敷きになっているため暖かい感じがある。全員がベッドなのだが、希望があれば布団も可能である。テレビ、位牌・遺影、籐のイス・テーブル、冷蔵庫、鏡台、ラジオ、タンスなどそれぞれなじみのものが持ち込まれ、個性的な居室作りになっている。また、居室の表札代わりに職員の手描きの似顔絵が飾られるなど温かみを感じられる。</p>		